

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 63人

② 算数 63人

5 留意事項

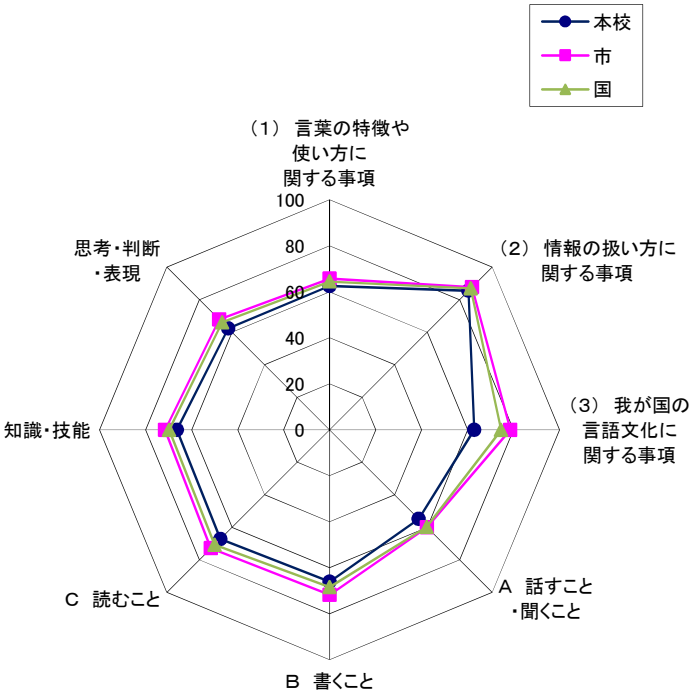
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	62.5	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	85.5	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	62.9	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	54.8	59.9	59.8
	B 書くこと	66.1	71.8	68.4
	C 読むこと	67.2	72.9	70.7
観点	知識・技能	66.4	71.5	69.8
	思考・判断・表現	62.3	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

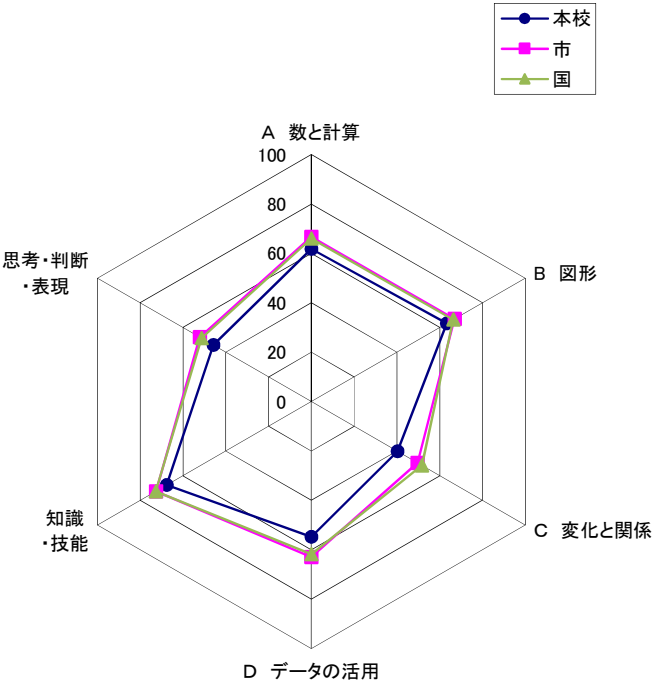
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	●平均正答率は62.5%で、市の平均正答率より3.2ポイント下回っている。 ○話し言葉の内容を理解し、書き言葉に正しく書き直す問題では、平均正答率は80.6%で、市の平均正答率より4ポイント上回っている。 ●漢字を書く力は十分に身に付いておらず、文の中で正しく使うことについて、課題が見られる。	・スキルアップタイムの活用や、AIドリルなどで繰り返し練習したり、確認テストなどを実施したりして基礎基本の定着と習熟を図る。 ・授業の感想や振り返りを書く場面などで、漢字を使って書くことを意識させるとともに、辞書などを活用し、適切な言葉を身に付けられるように指導する。 ・文の組み立て方を理解し、文中の語句と語句の関係に気を付けて、正しく主語と述語の関係を捉えられるように、普段から意識して指導する。
(2) 情報の扱いに関する事項	●平均正答率は85.5%で、市の平均正答率より2.1ポイント下回っている。 ●様々な情報の中から、図などを使って語句と語句との関係を表して捉えることに課題が見られる。	・文章を書く学習では、集めた材料を分類したり関係付けたりしながら文章の構成を考える学習活動を取り入れるようにする。 ・図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことについては、理科や社会科、総合的な学習の時間とも関連付けて、取り組むようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●平均正答率は62.9%で、市の平均正答率より15.7ポイント下回っている。 ●読書の記録の内容から、求められる適切な読書の意義について考えることに課題が見られる。	・読み聞かせや読書活動後の振り返りにおいて、記録を蓄積し、自分の考えがどう広がったかを実感できるようにしていく。 ・読書に関わる交流活動を積極的に取り入れ、学び合いを通して、様々な感じ方や捉え方があることに気付けるようにしていく。
A 話すこと・聞くこと	●平均正答率は54.8%で、市の平均正答率より5.1ポイント下回っている。 ●伝えたい内容によって、相手が知りたいことを取り入れて、優先して伝えることは何かを捉えることに課題が見られる。	・聞き手の求めていることや自分の目的や意図に応じて、集めた材料をどのように整理するか考えるよう指導する。 ・自分の考えが伝わるように表現を工夫するよう指導する。 ・国語だけでなく、朝の会の1分間スピーチや学級活動などで、生活体験を基に、感想や考えなどを表現する活動を積極的に取り入れる。
B 書くこと	●平均正答率は66.1%で、市の平均正答率よりも5.7ポイント下回っている。 ●目的や意図に応じて集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝えたいことを明確に表現にすることに課題が見られる。	・日記や作文、学習の振り返りなど、文を書く活動を意図的に取り入れた指導を、国語だけでなく学校生活全体で取り組む。 ・伝えたいことを明確にするために、集めた材料を書く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を整理したりするよう指導する。 ・自分の考えが伝わるように、事実と感想、意見とを区別して書き表せるよう指導する。
C 読むこと	●平均正答率は67.2%で、市の平均正答率よりも5.5ポイント下回っている。 ○物語の人物像を具体的に想像して捉えることができる。 ●登場人物の相互関係や心情、物語の全体像などについて、描写をもとに捉えることに課題が見られる。	・学校図書館などを利用し、様々なジャンルの読書に取り組みせ、文章に親しむ機会を増やす。 ・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりするために、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付けて考えるよう指導する。 ・文章の内容や構成を捉え、相手に分かりやすく工夫して表現する活動を設定する。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	61.8	66.7	66.0
	B 図形	63.3	66.9	66.3
	C 測定			
	D 変化と関係	40.3	49.6	51.7
	E データの活用	54.8	62.9	61.8
観点	知識・技能	67.6	72.6	72.8
	思考・判断・表現	45.9	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	●平均正答率は61.8%で、市の平均正答率より4.9ポイント下回っている。 ○数量の関係を、□を用いた式に表す問題では、平均正答率が95.2%で、市の平均正答率より3.7ポイント上回っている。 ●計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題が見られる。	・問題の内容を正しく読み取り、立式できるように様々な問題に取り組みせるとともに、個の力に応じて習熟度別学習の充実を図る。 ・計算の技能は、スキルアップタイムや家庭学習等を活用して繰り返し練習問題に取り組んだ結果、定着しつつある。今後は、自分の考えを記述する活動や説明する場を多く設定し、計算の仕組みにも興味をもたせるよう指導する。
B 図形	●平均正答率は63.3%で、市の平均正答率より3.6ポイント下回っている。 ○直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解できている。 ●角柱や円柱は、底面と側面で構成される立体であることの理解が不十分である。	・図形を構成する要素について、図形の意味や性質を基に、筋道を立てて説明する活動に授業に取り入れる。 ・立体の学習においては、展開図の作成・組み立てや、立体からの展開など、実際に立体に触れる活動を十分に行うなどし、理解を深めるようにする。
C 変化と関係	●平均正答率は40.3%で、市の平均正答率より9.3ポイント下回っている。 ●速さの意味を理解し、道のりと時間の関係を式と言葉を用いて説明することに課題が見られる。	・速さなどの単位量あたりの数値を正しく理解するために、分速や秒速について、体験を通して量感をもった上で、計算の反復練習を行い、習熟を図る。 ・伴って変わる二つの数量の関係を図に整理し、どのように変わっていくかに着目し、数値の関係を捉えたとともに、考えを友達に説明したり、共有したりするなど、学び合いの活動を取り入れる。
D データの活用	●平均正答率は54.8%で、市の平均正答率より8.1ポイント下回っている。 ●示された情報から必要な数値を読み取り、式を立てて解決することに課題が見られる。	・日常生活の中で、必要なデータを集め、観点を決めて整理し、目的に応じてデータの特徴や傾向を考察できるような活動を意図的に取り入れる。 ・データの読み取りでは、社会など他教科と関連付けて読み取る力を高めていく。また、具体的な量をイメージさせることで、実感を伴った読み取りができるように支援する。

宇都宮市立清原南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。」や「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか。」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、県の割合をいずれも上回っている。

●「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまくつたわよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。」の質問に肯定的回答をした児童の割合は46.1%で、県の肯定割合を20ポイント下回っている。また、「自分と違う意見について考えるのは楽しい。」の質問に肯定的回答をした児童の割合は69.8%で、県の肯定割合を8.6ポイント下回っている。話し合いをすることは、自分の考えを広げたり深めたりする上で大切であることは理解できているが、苦手としている児童が多いことが分かる。今後は、1人1台端末等を効果的に活用するなどして伝え合いや学び合いの場を意図的に設定し、自分の考えを広めたり深めたりする授業展開を工夫することで、話し合い、新しい考えを知ることのよさを実感できるように指導していく。

○PC、タブレットなどのICT機器の活用については、「楽しみながら学習を進めることができる。」や「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる。」、「友達と協力しながら学習を進めることができる。」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、それぞれ県の割合を上回っている。

●「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。」や「自分の考えや意見を分かりやすく伝える。」、「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。」の質問に肯定的回答をした児童は、それぞれ県の割合を下回っている。今後は、PC、タブレットなどのICT機器を積極的に活用するとともに、活動の目的を明確に示すなどして効果的な活用し、その効果を実感することができるような授業展開を工夫していく。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の質問に肯定的回答をした児童の割合は100%であった。いじめは絶対にしてはいけないという意識がしっかりと定着していることが分かる。今後は、よりよい友達関係を築けるよう指導を継続し、安心して生活できる学級づくりをしていきたい。

○「将来の夢や目標を持っていますか。」の質問に肯定的回答をした児童の割合は90.5%で、県の割合より5.3ポイント上回っている。今後は、学校生活のいろいろな機会を捉えて夢や目標をもつことの大切さを指導するとともに、宮っ子「夢」教室などを通して自分の将来について考え、目標や希望をもてるようにしていきたい。

●普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間、テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。」の質問に3時間以上と答えた児童の割合は39.6%で、県の割合より10.7ポイント上回った。一方で、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」の質問に肯定的回答をした児童の割合は71.5%で、県の割合を2.3ポイント上回っていた。このことから、使い方の約束の中で、ゲームの時間についても意識ができるよう、家庭と連携して指導していきたい。

●「学校に行くのは楽しい。」の質問に肯定的回答をした児童の割合は74.6%で、県の割合を10.9ポイント下回っている。一方で、「友達関係に満足していますか。」の質問に肯定的回答をした児童の割合は90%を上回っていることから、友達と関わる活動を意図的に組みながら、児童の意欲を高めていける工夫をしていきたい。

宇都宮市立清原南小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童が意欲的に取り組むための授業づくり	児童の興味・関心・意欲を高め、自ら問いをもち意欲的に取り組めるような学習活動を工夫している。また、主体的に粘り強く課題に取り組めるように学習形態など様々な環境を整える工夫をしている。	各教科の学習が好きかどうかについての質問の肯定割合は、すべての教科で県の平均を下回っている。また、「課題解決の向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」や「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできているか。」の肯定割合も、県の平均を下回っている。また、「PC、タブレットなどのICT機器を活用して、分からないことがあった時に、すぐに調べることができる。」の肯定割合は県の平均を下回っているが、90.5%と高い結果であった。
互いの考えや思いを聞き合い、協働的に課題解決に向かうための工夫	相手意識をもち、自分の考えや思いを伝えたり、友達の考えを聞き合ったりする場などの学び合いの工夫をしている。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」や「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」の肯定割合は、ともに90%以上であり、県の平均を上回っている。また、「PC、タブレットなどのICT機器を活用して、友達と協力しながら学習を進めることができる。」の肯定割合も、県の平均を上回っている。
児童が自分で成長を実感できる振り返りの工夫	授業の終末に、教師が児童一人一人のがんばりやよさなど見取ったことを価値づけて評価したり、児童が自分で成長を実感できるような振り返りを位置づけている。	「学習した内容について、分かった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげている。」の肯定割合は71.5%で、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりしている。」の肯定割合は80.9%で、ともに県の平均を下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
学習課題に対して、真面目に取り組む児童が多い。しかし、自分から進んで課題解決に向けて取り組んだり、自ら問いをもちながら粘り強く課題に取り組んだりする児童の割合は、県の平均より低い傾向があり、課題が見られた。	児童の興味・関心・意欲を高め、進んで追究したくなるような課題や「教育のユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業展開の工夫	児童が自ら学びたい、解決の必要性を感じるなどできる課題の設定を工夫するとともに、1人1台端末を効果的に活用したり、協働的な学びの場を意図的に設定したりして授業改善に取り組む。また、授業の「見直し・まとめ・振り返り」を明確にするなど、分かりやすい授業づくりに取り組む。
教科に関する調査のうち、記述式の設問では、無解答率は低い傾向であるが、平均正答率は、県の平均を下回っている。また、「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して書いている」の肯定割合も、県の平均を下回っていることから、書くことに苦手意識をもつ児童が多く、課題が見られた。	言語活動の充実と振り返り活動の工夫	各教科の特質に応じて、言語活動を充実させるなど授業改善に取り組む。また、授業終末時に、学習のめあてに即した振り返りや思考の過程を児童自身の言葉で論述する活動を意図的に取り入れることで、授業を通して自分自身の成長を実感したり、学んだ知識・理解の定着を図るようにしたりするとともに、書くことに慣れさせていく。